

{ October }

今月はこれまでに1番苦しい月になりました。初めは何もかもが新しくキラキラしていた生活もだんだんと日常化していき、今まで見えなかったことも見えてきます。それは本当に嬉しいことでも、ありがたいことでもあり、同時に私にとっては少し辛いことでもあります。ホストファミリーとの間では、家族に近づけば近づくほどどこか本当の家族になれない寂しさを感じます。例えば、ホストシスターは毎月ホストマザーやホストファザーとのプライベートタイムを欲しがりました。それは8歳の女の子にとっては大事な時間であり、私には理解できることですが、深く考えるところがありました。ホストマザーはそんな私の気持ちに気づいて、夫婦喧嘩があっても、子どもを叱る日があってもそれを自分のせいだと思わなくていい、たまにプライベートな時間が必要なのはあなたがいなくても同じことだからと優しく説明してくれました。また、いつまでこの家に滞在するかの決断を迫られた時に、自分の気持ちをはっきりと言えないもどかしさにすごく悩みました。言葉の壁はもちろん、自分の意見を聞かれているのに自分の意見は大切ではないとさえ思いました。ホストファミリーは私がここにずっと滞在していいと言ってくれたり、ホストシスターからはあなたが家族の一員であることが変わって欲しくないを書いてある可愛い手紙をもらいました。本当に幸せを感じましたが、それでもまだ何かに恐れて、ここにいたいと言い切れない自分の弱さを痛感しました。また、今月は



狂ったようにスペイン語を勉強しました。それは、本当に大切に思っている友達を目の前にして、ふと自分だけ彼らの思いを聞くことができないと気付いたからです。彼らは私より2ヶ月ほど前にマテワラというところからここに来ました。私はなぜ彼らがここにきたのか知りたいという興味本位で彼らを傷つたくなかったので今まで聞かずにきましたが、今月先生が私に少し話を聞かせてくれました。家族、友達、彼女と離れて親戚に引き取られて生活している子がほとんどです。聞いたときは胸が締め付けられる思いでした。2時間目の授業では、クラス内でスペイン語を話せないのは私1人です。彼らのほとんどがほぼ英語を理解していません。ふと1人だけ

みんなと会話が出来ないと気づいたときにどうしようもないほどの孤独感を感じました。たとえ私が英語を話せるようになっても彼らが辛い時に何で悩んでいるのか知ることはできないし、誰かがボソッとスペイン語で言った一言でクラス中が笑いに包まれるとき私だけ一緒に笑うことができません。言葉が通じない彼らと通じる彼らは全く違って見えるかもしれません。二言語の壁に挟まれて、毎日一緒に笑い合っているのにどうして、、、と悔しくて悔しくてたまらない日が続きました。少し正気ではなかったので今はスペイン語とは離れて英語に集中する努力をしています。自分の知らない世界の大きさや、言葉の重みなどたくさん感じて何より悔しいという感情が膨れあがりました。私にとっては辛い時間でもありましたが、この痛みを感じられる自分でよかったと心から思います。どんどん欲深くなってしまおう自分や、自分を大きく見せたくなくて嘘をついてしまう自分などマイナスな部分とも正直に向き合っていきます。今月は委員会の方と食事に行ったり、歓迎会をして頂いたり、たくさんサポートをして頂き感謝しています。素敵な出会い、大切な人、全てに感謝の気持ちでいっぱいです。レポート1枚に1ヶ月分まとめるのは大変で、ハロウィンのことがかけなくて残念ですが、家族、友達と最高の夜を過ごしました！